



## 見沼たんぼくらのイベント

### 平成28年度県民参加秋野菜栽培

本年度の県民参加秋野菜栽培の第1回が9月3日（土）10時より2号地（さいたま市緑区大字見沼484）に於いて開催され、種蒔が行われました。この秋野菜栽培への参加申し込み者は、県民からの公募及び当会会員併せて49グループ142名（県民公募：35グループ113名、会員申込：14グループ29名）ありました。第1回の参加者は108名であり、その内訳は県民公募27グループ73名、会員9グループ24名であり、その内3分の1に相当する子供（小学生まで）が36名含まれています。

更に、県担当者及び当会理事は11名の参加です。開催セレモニーの後、参加者を5班に分け、栽培地の94畝を栽培品種別に担当を決めて種蒔を開始しました。栽培品種は大根（聖護院・青首・紅芯・二十日）、蕪（聖護院・本・紅）、京菜、小松菜、春菊と決まりました。



初めての種蒔体験の方もおられたようですが、各班の担当理事の指導もあり、参加者全員による真剣な作業により暑さが厳しくなる前の11時頃までに完了しました。懸命に母親と共に種蒔をしていた幼児に初体験の感想を聞いたところ「楽しかった」と笑顔で答えが返って来ました。

今後順調な天候のもとで、除草などの栽培管理作業を通して収穫予定日の11月12日（土）にはその努力が報われるような立派な作物を笑顔のもとで収穫したいものです。（若野 忠男記）

### 見沼ふれあい農園づくり 京芋・里芋・八つ頭・生姜栽培（その2）

5月2日に植え付けた京芋・里芋・八つ頭・生姜は、その後2～3週間毎に除草を中心に作業を行い、8月4日に5回の作業がすべて終了しました。8月4日の最終回は梅雨明け初めての作業で35度を超える気温が予想されていたため、生姜の畝と芋の植え付け部分を中心に除草を行い短時間で作業を終えました。

とにかく雑草の伸びが早く生姜が隠れるほどで、生姜を切らないように注意が必要でした。一方、芋は順調に伸びていて葉の陰で作業者の姿が見えなくなる程でした。芋の葉には水滴がけっこう溜まっていて、暑いさなかに若干の涼を感じることができました。



今年は雨とぶつかることが多く、5回のうち3回も順延されました。そのせいか参加者は植え付け時こそ30名を超えたものの以降は20名を切り、作業が長時間に及ぶこともありましたが、埼玉県の新入職員や福祉施設の方々の応援もあり、お陰様で昨年以上の収穫が見込めるとのことです。

私は栽培に参加して3年目になりますが、作物を作ることの大変さ、収穫の喜びを大いに感じ、さらにメンバーの方々とのおふれあいも楽しく毎年続けております。役員・メンバー各位に感謝感謝です。

試し掘りの生姜も大変美味しく、収穫を大いに期待しております。（大口 信樹記）

# 見沼たんぼ地域の会員関係イベント

## 小中学生森のボランティア

佐々木 明男 (みどり愛護会春里支部)

今年になって、さいたま市社会福祉協議会より「夏のボランティア体験プログラム」のお話があり、みどり愛護会春里支部として協力をするようになった。ボランティア体験の中身は、高齢者関連、障害関連、子供関連、自然・環境などいくつもの分野に分かれていて、見沼区内では小中学生を対象としたものは、二団体のみであった。

みどり愛護会の春里支部が保全活動をしている春里自然の森は、住宅街に隣接をする雑木林であるが、昔ながらの植生が数多く育っている自然豊かな場所である。ボランティア体験は7月26日と8月1日の2回に分けて実施をし、前半は小学2年生と4年生の姉弟2名と、後半は中2と中3の男子2名の参加があった。作業は午前9時30分から11時30分とし、林内の草刈り、昆虫調査、樹木の名札作りをした。



両日共朝から春里支部のメンバーが数名応援に来てくれ、参加の子供たちに作業の手ほどきをしてくれた。鎌やクマデを使っての作業もスムーズにやってくれて、感心をした。

昆虫については、アブラゼミやミンミンゼミの激しく鳴く声を聴きながらセミの抜け殻を集め、パネルを使って幼虫と成虫の見分け方を解説した。昆虫好きの小学生は雄のカブトムシも捕まえたが、その場で放してやった。実際に手で触れることの大切さを理解していただいたかと思う。

樹木の名札作りは、セミやカブトムシの絵を描いてもらい林内に育っているコナラやアカシデ、イヌシデ、エゴノキ、ミズキなどの高木に張り付けることにした。短い時間ではあったが、休憩時間でのトウモロコシやメロンを食べながらの語らいは、私達おじさんやおばさんにとっても、癒しの時間ではなかったかと思う。

出来上がった10枚の名札はラミネートで仕上げたので、しばらくは通りがかりの人たちが見てくれるものと思う。わずか2日間で小さな森のギャラリーが誕生したようである。

来月20日には、協議会主催の見沼区ボランティア懇親会が開催されることになっている。



私たちも初めての経験であったが、小学生や中学生が熱心に作業を手伝ってくれたことに感謝をし、機会があればぜひまた今回のような企画に参加をしたいと考えている。 おわり

# 見沼たんぼ地域の会員関係イベント

さいたま市立大宮東小学校

第4学年総合学習

未来に残そう！ふるさとの自然

6月22日（水）午前半日、見沼たんぼの里やまを歩く自然観察行事です。大宮第二公園・9時集合、12時到着で、大宮東小と第二公園の往復は学級担任が引率しました。

コース：大宮第二公園…見沼代用水西縁…見沼1丁目の田圃…芝川…大宮体育館WC…大和田緑地公園特別緑地保全地区の斜面林と谷地…芝川左岸第7調節池…大宮第二公園。

児童：4学級140名（8班編成に組換え）

引率職員：5名、付添父母：6名、企画・指導：NPO法人自然観察さいたまフレンド・10名。



## 学級担任の先生からの礼状（コメント）

「見沼代用水や芝川周辺の自然を五感を使って観察することや、地域に残る動植物の絶滅危惧種等について大変貴重なお話を伺うことができました。実際に生き物を捕り、観察し、自然に返すことで、地域の身近なところにもたくさんの生き物が生息していることや、その生き物の特徴や生命の大切さも学ぶことができました。

指導者の方々には、子どもたちの質問にも細かく対応して頂きありがとうございました。

## 子どもたちが感動したこと

「トウキョウダルマガエルを捕まえた。」

「初めて、空飛ぶヒバリを見た。」

「葉の匂いを嗅いだら餅草・ヨモギだった。」

「森の空気が爽やかで実に美味しかった。」

（小野 達二記）

芝浦工業大学環境調査授業

見沼たんぼ・自然観察&調査と雑木林体験

6月25日（土）終日、環境システム学科2年生の選択授業として、中口毅博教授の下で、NPO法人自然観察さいたまフレンドの自然観察指導員8名が指導に当たりました。

コース：土呂駅東口⇒市民の森・芝生広場…市民の森・樹林地…芝川・鷺山橋…湧水路…鷺神社・社寺林…大和田2丁目緑地…関東ローム層露頭…大宮体育館WC…大和田緑地公園特別緑地保全地区・雑木林&屋敷林…芝川左岸第7調節池…芝川・石橋…生活排水路…見沼1丁目田圃…見沼代用水西縁・薄田橋…見晴公園・風車塔（風力発電）…市民の森⇒土呂駅東口

## 疎林と森林各種の違い明らかに

市民の森は公園の名称だが、樹木を、間隔を置いて植えた疎林で森林ではありません。森林に入ると、昆虫も鳥も多く生き物の楽園。

雑木林はコナラ・クヌギを主体とする落葉広葉樹が多い。屋敷林は防風と農機具に役立つシラカシや建築材に使うスギやヒノキが目立つ。まさに、百聞は一見に如かず。

各種樹木のCO<sub>2</sub>吸収量測定や水質検査のあとで、雑木林の下草刈りの実習。学生たちは汗をか



きながら、「空気が美味しい・・・」「みどりがCO<sub>2</sub>を吸収し、新鮮な酸素を出してくれるからですね・・・」などと環境保全林の役割を肌で感じてくれました。（小野 達二記）

# 見沼たんぼ水彩スケッチ紀行

## 大宮公園・舟遊池（ボート池）

温かな春の土曜日、訪れた大宮公園の舟遊池は、その名と違って舟は見られず、鴨がのんびりと遊泳中であった。

池の奥は葦でおおわれているが、濃淡織り交ぜた新緑樹林が水面に静かに映っていた。

氷川神社の参道から本殿にかけては、お宮参りや参詣の人々で混み合うほどの人出であったが、広い公園広場では親子連れが三々五々集う長閑な姿が印象に残った。

## 絵と解説 八木一郎



## 桜と竹林に囲まれた斜面林



見沼代用水東縁に架かる総持院橋から南の方向に代、用水沿いに連なる林は、「さいたま緑のトラスト基金」による保全第1号地として取得された斜面林で、コナラ・クヌギの雑木林や竹林（孟宗竹）が主体。

東縁の水路と一体となって、江戸時代そのまの状態で見沼たんぼの原風景の一つといわれる。

好天に恵まれた4月29日（祝日）保全林では「さいたま緑のトラスト協会」主催のタケノコ掘り会が開かれ、多くの家族連れ賑わっていた。

## 宝積寺

曹洞宗・深作山宝積禅寺。創建時期は今から400年前と伝えられるが、無住寺が断続した時期もあり、正確には不明といわれる。

境内には、市内屈指の大きさの板石塔婆（貞和3年1343年銘）がある（市の指定文化財）。また新秩父札所の二十九番寺として、十一面観世音をまつる小さな建物があり、この御開帳は十二年に一度（前回は2014年）、旧深作村民の有志がお世話をされている。



## 見沼たんぼくらぶ会員作品展

### せせらぎの小道（大谷ホタルの里）

作者 山部敏子

見沼区西福寺の東、斜面林にある  
きれいなせせらぎが続く小道 「大谷ホタルの里」。  
夏の夜にはたくさんの蛍が飛び交うという・・・  
そんな光景を思い浮かべながら描きました。



# 見沼たんぼ探訪記

## 合併記念見沼公園を訪ねて

7月の中頃、大宮区天沼の合併記念見沼公園に行くと、3.9ヘクタールの園内には管理棟があり、グループで来た5、6人の方たちがお茶などを飲みながら一休みしている。皆さんリュック姿で来ており、ここに来るまでに見沼たんぼのあちこちを歩いてきた様子だ。

園内の奥に進むと、湿地帯や沼に木道が配され、水面には周りの木々を逆さに写している。まるで鏡面を見ているように美しい。水辺ではカルガモの子供が5、6羽、水中に潜ったりして戯れており楽しそう。時折、食用ガエルが低い響きのある声で「グエー、グエー・・・」と鳴き出すが、仲間に何事かを話しかけているのだろう。傍のヨシの葉に目をやると、シオカラトンボが飛んできて「あー疲れた・・・」と言わんばかりに羽根を休めるのだった。

芝生広場に入ると、濃い緑が目にはみえる。広場の周りにはシラカシ、イヌシデ、クヌギ・・・などが見られ、エゴノキなどは、枝という枝にそれぞれ沢山の実を付けている。ダイズの大きき程の実で、淡い緑色をした実が如何にも可愛らしい。

若いお母さんと一緒に来た小さな子が、「キャー、キャー・・・」と喋って木陰のある芝生の上でボールを転がし、はしゃいでいる。その向こう



ではヒヨドリだろうか、群を作ってギュイー、ギュイーと大きな声で鳴きながら餌を探している。

静かな公園の中には色々な動きがあり、目を楽しませてくれるのでした。

(召田 紀雄記)

## 10回自然観察さいたまフレンド・フェア

NPO法人自然観察さいたまフレンドは、表記フレンド・フェア（隔年開催）を8月23日（火）～28日（日）、さいたま市立大宮図書館1階展



示ホールに於いてさいたま市教育委員会の後援により開催されました。

会期中の来場者は347名と

なりました。前回も来場された清水勇人さいたま市長は都合により来場不可のためメッセージが送られてきました。

台風9号の接近の影響による天候不順もあり上記来場の状況でありましたが、来場者は展示された諸作品や当会の活動状況を示すパネルを熱心に見学し、当番担当者と活発な情報交換をする機会も多く見られました。

会員13名による55点のA3判・四つ切W判・A4判による鳥類・昆虫・野草・観察風景・自然情景などの撮影された写真、会員2名による自然との関わり合いを吟じた俳句、また、「土筆と花」と題した押し葉作品の展示がありました。本会の活動を記録したパネル（芝川低地の観鳥・水質・植生調査の記録、見沼たんぼの絶危惧種（植物）・希少動物・外来動・植物のリストなど）、更に立体造形作品の「見沼たんぼの自然」、スズメバチの巣・その他の標本類、小学校の総合学習における児童の感想文集など当会の活動に係わる関連資料も展示されました。

当会は本年2月に彩の国埼玉県環境大賞優秀賞を受賞しましたが、その紹介文には次のことが記されています。

～見沼たんぼの環境を見守る活動～

設立は平成3年で、長年、見沼たんぼの水環境や植生を観察し調査することを実施してきた。

特別緑地保全地区指定のための植生調査を実施した。

芝川低地7か所で水環境調査を毎月実施している。

見沼たんぼの自然観察を年間9回以上実施している。

(若野 忠男記)

# 見沼たんぼの仲間たちNo.39

## 大宮郷土史研究会

織本 重道

大宮郷土史研究会は、主としてさいたま市の旧大宮市域を中心とした歴史の調査研究、講演会、会員の研究発表会、見学会、学習会等を実施し、また機関誌『大宮の郷土史』等を発行している団体です。

原則として講演会・例会（研究発表会等）は月2回、見学会と学習会は月1回、共同調査は年数回行っています。

大宮郷土史研究会は、昭和44年に創立、今年47年目を迎えました。さいたま市で最も歴史と実績のある団体の一つです。

会員は現在72名で、さいたま市大宮区、見沼区、北区、中央区の方が多いのですが、西区、浦和区、上尾市、蓮田市、北本市、熊谷市、遠くは神奈川県平塚市、川崎市の人もいます。

会員の年齢は特に調べてはいませんが、60代、70代の方が多いように見受けられます。

会員の中には大学で歴史学を専攻した、歴史を教えていたという方もいますが、ほとんどは自分の住んでいる所の歴史を知りたくなった、何となく歴史が好きという方です。

会員の義務は会費を納めることだけです。忙しい人は参加できる時に参加すればよいし、調べたことを皆に聞いてもらいたくなったら例会で発表し、あるいは『大宮の郷土史』に掲載することもできます。

年会費は4,000円で、高いと思われる方もおられるかと思いますが、例会や見学会あるいは共同調査等に参加して歴史に親しめることを考えれば決して高くはありません。

共同調査というのは会員と一緒に調査することで、最近では見沼区中川の中山神社、島の薬王寺、大宮氷川神社などを調査しています。薬王寺、氷川神社については今も継続中です。

地道な調査ですが、新発見もかなりあります。調査結果については例会で発表したり、機関誌『大宮の郷土史』に発表しています。

氷川神社の石造物についてはかつて大宮郷土史研究会で調査し、『氷川神社の歴史と四季』（昭和59年7月）と『大宮の郷土史 第9号』（昭和61年3月）に発表していますが、最近新しく発見されたものもありますので、現在再調査中です。



平成28年度後期の主な活動は、  
講演会

10月1日（土）10:00 桜木公民館

青木義脩氏「さいたまの神社建築」

2月5日（日）10:00 桜木公民館（予定）

重田正夫氏「明治元年の氷川神社行幸と  
国学者佐藤清臣」

3月5日（日）10:00 大宮図書館（予定）

馬場直也氏「熊野修験と氷川神社大湯祭」

この講演会はいずれも公開です。

例会 渡辺貞治氏「渡辺組大宮製糸所」、薬王寺共同調査報告、会員の発表、昭和30年代前半に大宮市役所広報課で作成したニュース映画「大宮ニュース」視聴など

見学会 「上野戦争の跡をたどる」ほか

入会希望、講演会参加希望、会に対する問合せは下記にお願いいたします。

Eメール sorimoto@nifty.com

携帯 080-6599-2663

大宮郷土史研究会 織本重道

# 見沼たんぼを支える農家さん

## 「マサキ園」 小山正久さん・松子さん

8月も終わりに近い、台風一過の強い日差しの中、大宮駅・中川循環のバス停「与野道」の向かい側、見沼たんぼに近いブドウ畑に「ぶどう狩り」の立て看板を見つけました。この巨峰のブドウを作っているのが、小山さんです。小山さんのお宅は元々農家で、ずっとご両親と奥様の松子さんが農地を守ってきました。正久さんは定年退職してから農業に取り組み、果樹の栽培を始めました。

イチジクやブドウを主に、果樹と季節ごとの様々な野菜を栽培しています。ブドウ狩りの案内は毎年、日にちを記して看板を出しておきます。すると特に宣伝をしなくても、この



自宅前の直売所

日を楽しみにしていた常連さんや、来園したお客さんで大方捌けてしまうそうです。お客さんの希望も聞けるので、房の大きさなどもそれに合わせて調節しています。とれた野菜や果物は、自宅前の直売と、加茂宮駅脇のグッドファーム、木崎ぐるめ米ランドで販売しています。

松子さんは農業だけでなく、味噌と漬物の加工資格を持っているので、麴作りからはじまる自家製味噌や、添加物を加えない昔ながらの漬物なども作っています。また、希望に応じて味噌作りの体験講習も行っていて、毎年ここで自宅の味噌を仕込むのを楽しみにしている常連さんもいるとのこと。

小山さんご夫妻は「中川友の会」という地域の農業者のグループにも加わっていて、様々なイベ

ントや地域行事などに参加、協力しています。ただ、周りでも農業経営が厳しく、後を継ぐ人もなく高齢化が進み、休耕田のまま、なんとか草刈だけはしているという農地が増え続けているそうです。

安心しておいしく食べられるようにと、有機肥料や米ぬか、牡蠣殻などを積極的に使い、農薬も最小限にとどめています。イチジクは、あたまが割れてくる前に、その割れ目から虫が入らないように一つずつ小さいテープでふさいでおくのだと聞いて、びっくり！普通の倍はありそうな、大きくてふっくらとしたイチジクは、こうして手塩にかけて育てられているのですね。

果樹は、試してみるの面白くていろいろなものを植えているんだよ。毎年、出来が良かったかどうかは何より楽しみで、この作る楽しみがある



小山正久さん、松子さん

からやめられないんだろうね、と話された時の笑顔が、なんともいえず素敵でした。

取材：島田由美子・高橋いずみ

文責：高橋いずみ

- ・自宅前の直売は火曜と金曜
- ・味噌作り体験は事前に連絡を

マサキ園：Tel. 048-683-5361

見沼区中川 323-2

## 見沼たんぼくらのイベント案内

### 見沼たんぼ清掃ボランティア

日時：11月3日（木・祝）10時～12時

集合・解散地：見沼グリーンセンター正門

JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩約10分  
（見沼代用水西縁・川島橋の東側）

■見沼たんぼを貫流する芝川・神明下橋～石橋  
周辺を散策しながらゴミを收拾します。

申込み：当日、集合地で9時30分から受付

参加費：無料 \* 見沼たんぼの恵み？進呈

### 自然観察ハイキング『見沼の自然と史跡 を訪ねて—氷川神社と紅葉の大宮公園』

日時：11月26日（土）9時～12時

集合地：大宮駅東口（北寄り）

解散地：大宮公園

■自然観察指導員のガイドで楽しく学びます。  
粘着フィルム即席押し葉づくりも……。

申込み：当日、集合地で8時30分から受付

参加費：¥500（ただし、会員は無料）

### 斜面林の体験学習—落ち葉かき

日時：12月11日（日）9時30分～12時

集合地：さいたま市立大宮体育館正門内側

東武野田線大和田駅から徒歩約20分  
大宮公園駅から徒歩約30分

■大宮体育館南側に広がる見沼たんぼ最大級  
の斜面林（雑木林）で落ち葉かきの実習

申込み：当日、集合地で9時から受付

参加費：無料 持ち物：作業手袋

## 会員の主宰するイベント情報

### 講演会『見沼たんぼの斜面林』

日時：10月11日（火）14時～16時

会場：見沼グリーンセンター2F会議室

JR宇都宮線土呂駅東口から徒歩約10分  
（見沼代用水西縁・川島橋の東側）

主催：未来遺産・見沼たんぼプロジェクト  
推進委員会

講師：小野 達二（埼玉県環境アドバイザー、  
さいたま市みどり愛護会会長、NPO  
法人自然観察さいたまフレンド代表理事）

■森林のタイプを解説し、見沼たんぼ地域に残  
してきた雑木林や屋敷林の位置づけを明らかに  
して、保全の経緯と今後の課題を話します。

申込み：当日、会場で13時30分から受付

参加費：¥500

### 見沼たんぼの自然観察会

日時：11月5日（土）13時～16時

集合・解散地：合併記念見沼公園

主催：NPO法人自然観察さいたまフレンド

申込み：当日、集合地で12時30分から受付

参加費：¥500

交通：大宮駅東口からバス④自治医大行き終点  
下車、南側（大宮発 12:00 12:30）

## 見沼たんぼくらの会員募集中！

- 季刊『みぬま通信』をお届けします。
- 埼玉県土地水政策課の支援のもとに、見沼  
たんぼ地域の里やまで様々の体験事業を展開  
○...見沼ふれあい農園づくり  
農地はスタッフが耕運し、畝づくりを済ませ、  
種蒔き・植付から除草、収穫までの作業です。  
「京芋・里芋・八つ頭栽培」や「秋野菜栽培」  
などを楽しみ、福祉施設にも寄贈します。  
○...自然観察ハイキング  
自然観察指導員のガイドで、年4回、史跡を  
巡りながら、花や鳥などを見て回ります。  
○...見沼たんぼ清掃ボランティア  
○...斜面林の体験学習  
○...見沼塾—見沼の自然や文化を学ぶ講座
- 年会費 個人（同居の家族単位）・団体・  
企業とも1口¥1,000（団体・企業  
は3口以上）

## みぬま通信第68号

発行日 平成28年月10月1日

発行所 見沼たんぼくらぶ

〒337-0053 さいたま市見沼区大和田町  
1-2124-3 小野方

TEL・FAX (048) 683-1764

E-mail t.ono@axel.ocn.ne.jp

URL <http://minumatanbo.web.fc2.com/>

© 2016 Minuma Tuusin